

私たちが
やらなきゃ!



ながつましポート

発行: 民主党板橋区議会議員団

編集: 中妻じょうた事務所

2012年10月号

区民の思いは伝わっているか? 教育委員会との「温度差」



学校選択制、いじめ対応... 淡々、住民意向軽視

8/29の教育委員会を傍聴して

8/24の文教児童委員会では、児童虐待の対応状況、学校での現金紛失、いじめの対応状況、そして前号でもお伝えした大山小学校の存廃の問題など、大変重要な報告がめじろ押しでした。どの委員も掘り下げた質問を重ね、時間を大幅にオーバーして議論が行われました。

その文教児童委員会の議論が、はたして教育委員会でどう扱われるのか。ここをぜひ確認しなければならないと思い、8/29に開催された教育委員会を傍聴しました。

そこで感じたのは「熱」の違いでした。まさに「温度差」。子どもの教育環境を心配する保護者や地域の皆様の思いが本当に届いているのか、懸念を感じます。この日の教育委員の発言を一部ピックアップします。

大山小に関して

一番影響を受けているのは子どもたち、長々と議論を引っ張るのはよくない。子どもたちのことを考えたら早く改善してあげたい。

20人の複数学級が適切なのだから、必要な新入生数は40人ですよね?

着手が遅れたのは反省点であり、迂闊だった。他校で児童数が回復した事例もあり、同様に回復すると思い込んでしまった。

反省点があることを認めながら、「結局こうなってしまったのだから早く統合しよう」という論調です。地元の方々は納得できるでしょうか?

いじめ対応状況に関して(表のデータを見ながら)

じゃあ、概ねは対応済みってことですね

まったく同じデータを見ながら、文教児童委員会では私含め、各委員が掘り下げた質問をしていました。子どもがいじめを報告しやすい環境を作っているか、例えば中学生になれば自分がいじめられているとはいいにくくなるのではないかと、また実際のアンケート内容はどうだったか、といった質問を私はしています。この結果、アンケートの内容は学校ごとにまちまちであることがわかりました。いじめ対応がうまくいっている学校とうまくいっていない学校があるのではないかと懸念されます。

しかし教育委員会では、簡単な確認があっただけで、あっさりとして上記の台詞で議論が終了してしまいました。このようなあっさりした姿勢で、深刻な問題の兆候を迅速にキャッチできるのでしょうか?

私は、この「温度差」を何とか解消したいと思っています。まずせめて、教育委員を文教児童委員会に必ず出席させるようにすべきではないでしょうか。教育委員に「熱」を伝えなければならないと私は思っています。

	設問	小学校	中学校	小中学校合計
設問1	今回の調査でいじめと認知	181	26	207
設問2	いじめの疑いあり	168	165	333
設問3	特段の対応なし	0	0	0
	保護者に状況など説明	57	29	86
以外重複回答可	教員などが状況把握を含め対応中	144	157	301
	その他	7	5	12

いじめ実態把握のための緊急調査結果
(平成24年8月)

